



伝統文化研究プロジェクト

学祖の国家伝統研究を受け継ぐ

道徳科学研究所 主任研究員
伝統文化研究プロジェクトリーダー

橋本 富太郎

プロジェクトの概要

伝統文化研究プロジェクトは現在、昨年度までの伝統文化研究室の事業を引き継ぎ、「伝統」に関する研究を進めています。

ここでいう「伝統」は、モラロジーに説く恩人の系列のことであり、特に「国家伝統」を指します。日本における国家伝統は、その象徴たる皇室にはかなりません。学祖・廣池千九郎博士は、諸伝統の中で国家伝統を最も重視するとともに、日本皇室を世界における五つの道徳系統の一つに数え、その恩恵と道徳性を盛んに講じてきました。当プロジェクトは、こうした廣池博士の研究を継承するとともに、皇室研究者あるいは奉仕者としての廣池博士そのものをも研究対象としています。

成果の継承とプロジェクトの構想

構成メンバーは、所功客員教授、久禮巨雄^{おほ}客員研究員と私（橋本）のほか、数名の客員研究員および研究協力者から成ります。当メンバーにより、これまで『皇位継承の歴史と廣池千九郎』『御大礼の来歴と意義』などが刊行されてきました。これらの成果を受け継いで、現在、二つのプロジェクト「宮廷祭祀の比較研究」と『皇室野史』全文注解が構想されています。

「宮廷祭祀」は、皇居・宮中三殿におけるお祭りをはじめ、大嘗祭や伊勢神宮の神事などのことですが、それは日本の最高道徳そのものといべきものであり、国家伝統研究の核心的領域といっても過言ではありません。これらを歴史的・国際的に比較検討し、その成果を道徳教育に還元していくとするとするものです。

今後の計画

『皇室野史』は、明治二十六年、廣池博士二十七歳の著作であり、博士の初期の皇室観・日本人観がよく表れており、思想形成上非常に重要な書物です。本書を分析することによって、国家伝統の歴史的意味と国民との関係性が明らかになり、これからの国のあり方と道徳教育にも示唆を与えるものになると考えられます。

当プロジェクトの今後の計画としては、すでに『皇室野史』は着手しており、当面はこちらを中心に進めていきます。本書の全文に注釈を加え、その内容を紹介し、一章ずつ研究発表を行い、順次、『モラロジー研究』に掲載していきます。その第一弾として、令和四年一月十二日（水）に行われる研究会での発表を予定しています。